

事務事業名		三陸鉄道支援事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 合併建設計画登載事業																																									
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間		<table border="1"> <tr><th colspan="5">予算科目</th></tr> <tr><th>会計</th><th>款</th><th>項</th><th>目</th><th>事業</th></tr> <tr><td>01</td><td>02</td><td>01</td><td>06</td><td>33</td></tr> </table>		予算科目					会計	款	項	目	事業	01	02	01	06	33																									
	予算科目																																														
	会計	款	項					目	事業																																						
01	02	01	06	33																																											
施策名	交流連携を支える交通・情報ネットワークの充実																																														
基本事業名	公共交通機関の利便性維持と利用促進																																														
根拠法令				<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 平成6 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																																											
所属	部課名	商工港湾部商業観光課																																													
	課長名	鈴木 弘																																													
	係名	交通通信係	電話 27-3111																																												
	担当者	佐藤直司	内線 108																																												
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																																											
三陸鉄道株式会社の経営支援を図るため、運営費及び設備維持に要する経費などに補助する支援事業。 また、三陸鉄道株式会社が実施するお中元ギフト、お歳暮ギフトの斡旋があるため、市役所職員を対象に協力を呼びかける。 主な業務は、補助金については①交付申請の受付、②交付決定通知、③実績報告書を受理後、支出斡旋については、注文書受取後、庁内外各課へ注文書を配布 県の三陸鉄道復興地域活性化支援事業費補助金を活用した鉄道施設の整備による三陸鉄道の利便性向上と利用促進。恋し浜駅の旅客通路及び陸前赤崎駅の駅待合室兼地域公民館施設の整備を実施。				<table border="1"> <tr><td>総投入量(千円)</td><td>事業費</td><td>国庫支出金</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>財源内訳</td><td>都道府県支出金</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>地方債</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>その他</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>一般財源</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>事業費計(A)</td><td>0</td></tr> <tr><td></td><td>人件費</td><td>正規職員従事人数</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>延べ業務時間</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>人件費計(B)</td><td>0</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>トータルコスト(A)+(B)</td><td>0</td></tr> </table>				総投入量(千円)	事業費	国庫支出金			財源内訳	都道府県支出金				地方債				その他				一般財源				事業費計(A)	0		人件費	正規職員従事人数				延べ業務時間				人件費計(B)	0			トータルコスト(A)+(B)	0
総投入量(千円)	事業費	国庫支出金																																													
	財源内訳	都道府県支出金																																													
		地方債																																													
		その他																																													
		一般財源																																													
		事業費計(A)	0																																												
	人件費	正規職員従事人数																																													
		延べ業務時間																																													
		人件費計(B)	0																																												
		トータルコスト(A)+(B)	0																																												

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標													
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 三陸鉄道線の運営費及び鉄道安全輸送設備等整備事業等に対し、補助金を支出する。交付申請書受付、交付決定通知、支出事務。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) <table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>補助金交付件数</td><td>件</td></tr> <tr><td>イ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ウ</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	ア	補助金交付件数	件	イ			ウ		
名称		単位											
ア	補助金交付件数	件											
イ													
ウ													
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 三陸鉄道株式会社	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) <table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>カ</td><td>三陸鉄道株式会社</td><td>社</td></tr> <tr><td>キ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ク</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	カ	三陸鉄道株式会社	社	キ			ク		
名称		単位											
カ	三陸鉄道株式会社	社											
キ													
ク													
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 三陸鉄道の基盤整備に係る費用負担が軽減され、経営が安定する。 ※経常収支率… 100円の収入を得るために必要な経費(経常支出合計÷経常収入合計)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) <table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>サ</td><td>経常収支率</td><td>%</td></tr> <tr><td>シ</td><td>三陸鉄道乗車人数</td><td>万人</td></tr> <tr><td>ス</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	サ	経常収支率	%	シ	三陸鉄道乗車人数	万人	ス		
名称		単位											
サ	経常収支率	%											
シ	三陸鉄道乗車人数	万人											
ス													
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 利用者の利便性に配慮して運行する													

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業内訳	単位	年度					
			23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)
事業費	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	32,286	245,990	739,059	207,914	54,969	32,286
	事業費計(A)	千円	32,286	245,990	739,059	207,914	54,969	32,286
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	30	30	30	30	30	30
	人件費計(B)	千円	120	120	120	120	120	120
	トータルコスト(A)+(B)	千円	32,406	246,110	739,179	208,034	55,089	32,406
⑤活動指標	ア	件	2	3	4	2	2	
	イ							
	ウ							
⑥対象指標	カ	社	1	1	1	1	1	
	キ							
	ク							
⑦成果指標	サ	%	120	140	161	102	120	
	シ	万人	30	39	50	69	80	
	ス							

事務事業ID	0380	事務事業名	三陸鉄道支援事業
--------	------	-------	----------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	平成6年度から鉄道の近代化設備を導入することとなったため、県・各市町村の負担が発生することとなった。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	三陸鉄道開業時に269万人あった利用客が、20年後の平成15年度には、39.6%にまで減少し、資金不足となった三陸鉄道は、三陸鉄道運営助成基金を取り崩して赤字額を補填してきた。 東日本大震災により被災した鉄道は、平成26年4月に全線運行再開を果たしたものの、地元住民の利用離れが懸念されている。 平成26年12月には復旧事業の協定書に基づき、三陸鉄道(株)が所有する車両以外の鉄道事業用減価償却資産が沿線市町村に寄付され、市町村は当該資産を三陸鉄道(株)に無償で貸付することとなった。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	岩手県三陸鉄道強化促進協議会が平成17年6～7月に沿線12市町村の住民3,632人を対象にした三陸鉄道の支援策についてのアンケート結果では、三陸鉄道が必要だと答えた人は52%であり、運営助成基金が枯渇した後(対応については、「主として税金で負担し、住民も何らかの形で負担」が26%で最も多く、「全額を自治体で負担(8%)」と合わせて34%が財政負担を容認している結果となった。

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】	三陸鉄道の快適性、利便性、安全性を向上させるものへの支援であるため。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】	過疎地域の住民の足として、自家用車を利用できない高校生・高齢者等の日常生活に必要な生活交通の確保は、行政の役割である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】	三陸鉄道を支援するためであり、対象・意図とも妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】	鉄道を維持するためには、運営費(修繕費、人件費等)及び近代化設備に係る経費等は必要不可欠な経費であるため。 また、う
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】	廃止すれば、三陸鉄道の運営そのものができなくなり、市民の交通手段の確保に支障がでる。特に自家用車を利用できない高校生や高齢者等の通学・通院の足を失うことになりかねない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】	類似事業はない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	施設の老朽化が避けられないので、事業費はこれからますます増大する。 また、沿線自治体等の補助がなければ三陸鉄道の運営が出来なくなることから、削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	現状でも、必要最小限の人数である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】	受益者は三陸鉄道であり、偏りはない。
			事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

### 3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

<p>(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)</p> <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>(2) 全体総括(振り返り、反省点)</p> <p>補助金の交付事務等のみであり、事務量は少ないが、事業費は増加している。ただし、事業費は最低限必要な額であり、協議会での承認も受けているので削減の余地はない。市としては、経営支援と平行して、利用促進の面からも支援していく必要がある。</p>									
① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
<p>(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 ( <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善 )</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>事務としては現状維持ではあるが、今後の補助金額を最大限抑制するためには三陸鉄道の経営そのものが安定するよう利用促進に努めていかなければならない。</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		
<p>(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等</p>																						

(職名) ※原則として施策の主管課長 (氏名)

2次評価者	商業観光課長	鈴木 弘
-------	--------	------

### 4 事務事業の2次評価結果

<p>(1) 1次評価結果の客観性と出来具合</p> <p>①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)</p> <p><input type="checkbox"/> 記述不足でわかりにくい</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部記述不足のところがある</p> <p><input type="checkbox"/> 記述は十分なされている</p> <p>②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)</p> <p><input type="checkbox"/> 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部に客観性を欠いたところがある</p> <p><input type="checkbox"/> 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)</p>																						
<p>(2) 2次評価者としての評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>(3) 評価結果の根拠と理由</p> <p>・適切な事務執行がなされている。</p> <p>・三陸鉄道復興地域活性化支援事業費(クウェート)補助金を活用し、大洞ふれあい交流館を建設しているが、設計や財源確保に不測の日数を要したことにより、事業費の一部(31,495,880円)を平成27年度に繰越した。</p>									
① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
<p>(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 ( <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善 )</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>・現状どおり継続して事業を実施する。</p> <p>・平成26年4月の三陸鉄道全線運行再開により、全国のマスメディアに大きく取上げられたことで観光客を中心に26年度は大幅に利用者数が増えた。しかしながら27年度は、その反動で利用者の減が見込まれていることから、今後ますます、三陸鉄道と関係支援者(住民、地域団体、行政等)が地域交通の維持と持続的経営という課題を共有して連携し、わたしたちの三陸鉄道(アワーレール)意識の醸成を図る必要がある。</p>	<p>(5) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

### 5 最終評価結果

<p>(1) 政策推進会議等での指摘事項</p>
--------------------------